

野生動物と共存する未来へ

岐阜市立島中学校 3年

福井 里奈

「メダカが消えた。」

数年前、メダカは絶滅危惧種でありながら、私たちの地域では、よく見かけていました。だから、私たちの地域には、生物の絶滅など無縁の話だと思っていました。ところが、その思いとは反対に、その後、私たちの地域でもメダカはどんどん減っていきました。現在、用水路の中をのぞいても、数の減ってしまった田んぼの中を探しても、メダカを見付けることはできません。そんな中、私は考えました。このままたくさんの生き物が絶滅してしまったとき、どのような世界が待っているのかということ。そして私は、人間など、限られた生き物だけになった世界は、とても寂しく、孤独だと思いました。私は、今いるたくさんの生き物たちと、にぎわう地球を守り続けたい、そう思いました。

現在、メダカの他にも絶滅の危機に追い込まれている動物はたくさんいます。岐阜県の県鳥であるライチョウ、動物園で人気のアフリカゾウやトラなども絶滅が心配されています。ホッキョクグマは、現在約26,000頭しかいないと世界自然保護基金は発表しています。もう、時間の猶予はありません。多くの動物たちを絶滅から守るため、私たちは、今、この瞬間から変わるべきなのです。

そこで、2つの事を提案します。1つ目、ポイ捨てをゼロにしましょう。海に浮かぶプラスチックなどを食べてしまい、死んでしまう動物がたくさんいます。ビニールなどにひっかかったり、からまったりして死んでしまう生き物も多くいます。河原にはたばこのすいがらも捨てられています。私たちの地域の用水路には、飲みきれなくなった飲み物が流されていました。あなたが捨てたゴミが、不注意で飛ばしたビニールが、自分勝手な気持ちで流した飲み物が、多くの野生動物の命を奪っているのです。2つ目、地球温暖化を防ぎましょう。地球温暖化の防止には、もちろん企業の対策や、世界的な政策が必要です。しかし、私達一人一人にもできることがあります。植物のカーテンである緑のカーテンをつくらせたり、それらの工夫により冷房の設定温度を上げたりすることなどです。きっと、多くの人が、このような活動のことを知っています。しかし、

「大変だから。」

「面倒臭いから。」

と言って、実際には活動できていない人が多いと思います。過去の自分もその一人でした。しかし、ある動物の現実を目の当たりにしたとき、それらの気持ちは吹っ飛びました。私は、ホッキョクグマの写真を見ました。ガリガリにやせてしまった姿や、とても小さな氷の上に必死で乗っている姿を見て、胸が締め付けられるように苦しくなりました。また、彼らの目からは、生きたいという強い思いが伝わってきました。私は、動物たちのそんな思いを裏切りたくないです。だから私は、これからも自分にできる地域温暖化対策を行っていきます。皆さんも、どうか野生動物の現状について知って下さい。あなたの「大変」「面倒臭い」といった気持ちも、きっと変わると思います。最後に、お願いをします。地球は人間だけの星ではないことを、忘れないで下さい。野生動物は、今、この瞬間も、私たちと共に生きています。

最近、オーストラリアで森林火災が起きました。燃えさかる森の中にいる動物たちを見て、「助けてあげたい。」と思ったのは、私だけではないはず。しかし、地球も同じです。動物たちには、どうすることもできない、気温や環境などの変化により、多くの命が失われています。苦しめられています。地球は、今、人間によって燃やされています。地球火災から野生動物を救えるのは、私たち人間だけなのです。